

## 安全データシート

作成 : 2021年4月13日

改定 : \_\_\_\_\_

商品名 : W効果ネズミ忌避スプレー420ml

## 1. 製品及び会社情報

製品の名称 : W効果ネズミ忌避スプレー420ml  
 会社名称 : 株式会社 SHIMADA  
 住所 : 〒527-0157 滋賀県東近江市下中野町1050番地  
 担当部門 : 品質管理部  
 TEL:0749-46-1233 FAX:0749-46-1235  
 緊急連絡先電話番号 : 品質管理部  
 TEL:0749-46-1233 FAX:0749-46-1235  
 推奨用途 : 忌避剤(業務用)

## 2. 危険有害性の要約

## 重要危険有害性及び影響

## 特有の危険有害性

## GHS 分類

## 物理化学的危険性

エアゾール

区分 1

## 健康に対する有害性

急性毒性(経口)

分類できない

急性毒性(経皮)

分類できない

急性毒性(吸入:ガス)

分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気)

分類できない

急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)

分類できない

皮膚腐食性/刺激性

区分外

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

区分 2A

呼吸器感作性

分類できない

皮膚感作性

区分 1

生殖細胞変異原性

分類できない

発がん性

区分 1A

生殖毒性

区分 1A

標的臓器/全身毒性(単回曝露)

区分 2(心臓)

区分 3(気道刺激性、麻酔作用)

標的臓器/全身毒性(反復曝露)

区分 1(肝臓)、区分 2(中枢神経)

吸引性呼吸器有害性

分類できない

## 環境に対する有害性

水性環境有害性(急性)

区分 3

水性環境有害性(慢性)

区分 3

オゾン層への有害性

分類できない

\* 記載がないものは分類対象外または分類できない。

## ラベル要素

## 絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報 極めて可燃性／引火性の高いエアゾール  
 高压容器：熱すると破裂のおそれ  
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
 強い眼刺激  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 眠気またはめまいのおそれ  
 発がんのおそれ  
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
 心臓の障害のおそれ  
 長期または反復暴露による肝臓の障害  
 長期または反復暴露による中枢神経系の障害のおそれ  
 長期継続的影響により水生生物に有害

取扱注意  
 [安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。  
 裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。  
 加压容器：使用後を含め、穴を空けたり燃やしたりしないこと。  
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入を避けること。  
 取扱い後は手をよく洗うこと。  
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
 環境への放出を避けること。

[応急措置]

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
 皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。  
 吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。  
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
 気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。  
 特別な処置が必要である。  
 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当を受けること。  
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けること。  
 汚染した衣類は再使用する場合は洗濯すること。

[保管]

火災の場合には、消火に泡、散水または噴霧水、炭酸ガスを使用すること。  
 容器を密閉して換気の良いところで保管すること。  
 施錠して保管すること。

[廃棄]

日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。  
 涼しい所／換気の良い場所で保管すること。  
 内容物は使い切り、容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS分類に該当しない他の危険有害性

可燃性ガスが入っている。引火及び高温による内圧上昇により破裂のおそれがある  
 液化ガスが皮膚に触れると凍傷を生じるおそれがある。

3. 組成及び成分情報(混合物・危険有害性物質を対象)

化学物質・混合物の区別 混合物  
 組成及び成分情報

成分名 (化学名または一般名、別名)	CAS No.	濃度または濃度範囲 (wt%)	化学式又は構造式	官報公示整理番号		PRTR法
				化審法	安衛法	
エタノール	64-17-5	40-50	C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> O	2-202	既存	-
メントール	68917-18-0	1-10	C <sub>10</sub> H <sub>20</sub> O	なし	111-(1)-458	-

シトロネラール	106-23-0	1-10	C <sub>10</sub> H <sub>18</sub> O	(2)-514	-	-
トリモネン	5989-54-8	1.0未満	C <sub>10</sub> H <sub>16</sub>	3-2245	3-(4)-187	-
プロパン	74-98-6	10-20	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub>	(2)-3	-	-
イソブタン	75-28-5	1-10	C <sub>4</sub> H <sub>10</sub>	(2)-4	-	-
ノルマルブタン	106-97-8	20-30	C <sub>4</sub> H <sub>10</sub>	(2)-4	-	-

#### 4. 応急措置

以下のいかなる場合も、必ず医師の手当てを受けること。

目に入った場合	噴射したガスやミスト、泡沫等が眼に入った場合、清浄な水で数分間注意深く洗うこと。 次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外すこと。 その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗眼する。 眼が開けられない場合、無理にあけさせない。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。できるだけ速やかに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水又は温水で洗い流す。 付着物を布にて素早く拭き取る。多量の水と石鹼(又は皮膚用の洗剤)を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しない。 また大量に付着したり、全身にかかった場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。 外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
吸入した場合	蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸が不規則か止まっている場合には気道を確保し、人工呼吸または酸素吸入を行う。 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、速やかに医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、水で口の中を洗い、安静にして、直ちに医師の診断を受けること。 自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。嘔吐物は飲み込ませないこと。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
最も重要な兆候及び症状	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 強い眼刺激 呼吸器への刺激のおそれ 眠気またはめまいのおそれ 発がんのおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 心臓の障害のおそれ 長期または反復暴露による肝臓の障害 長期または反復暴露による中枢神経系の障害のおそれ
応急措置をする者の保護	換気を行う。救助者は状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク、保護手袋保護衣等)を着用する。火気及び着火源に注意する。
医師に対する特別注意事項	情報なし。

#### 5. 火災時の措置

消火剤 使用してはならない 消火剤 火災時特有の危険 有害性	泡、散水又は噴霧水、炭酸ガス(容器を冷却し容器内圧を上げないもの) 棒状注水。  加熱により容器が爆発するおそれがある。 内容液等は極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災時に刺激性、毒性及び腐食性のガスを発生するおそれがある。 空気と爆発性混合気を形成する。 空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがある。遠距離引火の可能性があり、より低い場所にたまり酸素不足を引き起こすことがある
--	--

特有の消火方法	容器が熱に晒されているときは、移さない。危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。 消火活動は十分距離をとって、風上から行う。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	:消火者は必ず適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、空気呼吸器等を装備する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。 風上に留まる。低地から離れる。 密閉された場所に立ち入る前に換気する。 漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。 高濃度のガスを吸入した場合、窒息の恐れがあるので、陽圧自給式呼吸器等、呼吸器保護具を着用する。
環境に対する注意事項	河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意すること。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。
封じ込め及び浄化の方法	乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し、後で処理をする。(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる) 回収液には可燃性の気体が溶解しているため、回収直後に密閉してはいけない。気体を放出させてから容器を密閉する事。 衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
二次災害の防止策	蒸気発生が多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。 付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 火花が発生しない工具を使用する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 ガス等が拡散するまでその場所を隔離する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意(関連法規に準拠して作業すること)

取扱い 技術的対策(推奨)	取り扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する。 静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型(安全増型)を使用する。 作業衣、作業靴等は導電性の物を使用する。 工具は火花防止型の物を使用する。
局所排気・全体換気	換気のよい場所で取り扱う。 取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱うこと。 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。 気体の液化ガスは空気より重く低い場所に滞留しやすい。使用するにあたっては、空気中の酸素濃度が低くなる危険性があるので、密閉された場所や換気の悪い場所で取り扱わないこと。
安全取扱い注意事項	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。 ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。 ミストを吸入しない。 火炎に向かって噴射してはならない。 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する-禁煙。 容器が破裂する恐れがあるので、温度が高くなる場所に置かない。 休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。 取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。 混触禁止物質と接触しないように注意する。 「10. 安定性及び反応性」を参照。
接触回避 衛生対策	取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

保管  
技術的対策  
混触禁止物質  
保管条件

静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
「10. 安定性及び反応性」を参照。  
幼児の手の届かない所に置くこと。  
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。  
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること-禁煙。  
40℃以上になる所には置かないこと。  
混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。  
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。  
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。  
安全な容器包装材料 高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。  
容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。

## 8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度(ばく露限界値又は生物学的指標)

成分名	管理濃度(安衛法)	許容濃度		
		日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
エタノール	設定されていない	設定されていない	設定されていない	1000ppm
プロパン	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない(C,EX)
ブタン	設定されていない	500ppm 1,200mg/m <sup>3</sup>	設定されていない	1,000ppm(EX)

※安全衛生情報センター、NITE CHRIP記載データ等に基づく

※許容濃度が設定されていないものは省略している。

設備対策

排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。  
取扱い設備は防爆型を使用する。  
取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。  
屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。  
タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

保護具

必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定には保護具メーカーや専門家等の意見を聞いて実施すること。

呼吸用保護具

有機ガス用防毒マスク、(密閉された場所では)送気マスク等

手の保護具

保護手袋(不浸透性、耐薬品性等)

目の保護具

保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面等

皮膚及び身体

保護衣(長袖、不浸透性、導電性)、導電性の靴、前掛け等(耐溶剤性)等

の保護具

適切な衛生対策

保護具は清潔で有効なものを使用する。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
作業中は飲食、喫煙をしない。

## 9. 物理/化学的性質

	内容液	噴射剤
		液化石油ガス
物理化学的状態	液体	無色透明
外観	無色透明	無色透明
臭い	特異臭	無臭
臭いの閾値	データなし	データなし
pH	データなし(20℃)	該当しない
融点・凝固点	-114.℃(エタノール)	プロパン -189.7℃ n-ブタン -138℃ イソブタン -160℃

沸点,初留点及び沸騰範囲	78.5°C(エタノール)	プロパン -42°C n-ブタン -0.5°C イソブタン -12°C
引火点	13°C 密閉式 (エタノール)	プロパン -104°C n-ブタン -60°C イソブタン 引火性ガス
蒸発速度	データなし	データなし
燃焼性(固体,気体)	データなし	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	3.3vol%~:19vol% (エタノール)	プロパン2.1~9.5vol% n-ブタン1.8~8.4vol% イソブタン1.8~8.4vol%
蒸気圧	59.3mmHg (25°C) (エタノール)	プロパン 1.275MPa(40°C) n-ブタン 0.278MPa(40°C) イソブタン 0.427MPa(40°C)
蒸気密度	1.59(空気=1)エタノール	プロパン 1.6(空気=1) n-ブタン2.1(空気=1) イソブタン 2.0(空気=1)
比重(相対密度)	0.799(20°C)	プロパン 0.5(水=1) n-ブタン 0.6(水=1) イソブタン 0.6(水=1)
溶解度	水と混和	プロパン 0.07g/100mL n-ブタン 0.006g/100mL イソブタン 不溶
n-オクタノール/水分配係数	エタノール 0.31 (log Kow)	プロパン 2.36 (log Pow) n-ブタン 2.89 (log Pow) イソブタン 2.80 (log Pow)
自然発火温度	363°C (エタノール)	プロパン 450°C n-ブタン 287°C イソブタン 460°C
分解温度	データなし	データなし
粘度(粘性率)	1.074mPa・s 20°C (エタノール)	データなし
その他	データなし	データなし
着火試験結果	未実施	cm 以上
爆発試験結果	未実施	

## 10. 安定性及び反応性(製品として)

反応性	40°C以上になると破裂の恐れがある。 常用温度で缶内圧は約 0.5MPa。 静電気が発生すると引火爆発の危険性がある。
化学的安定性	高温の表面、火花又は裸火により破裂し発火するおそれがある。 通常の使用において安定している。
危険有害反応可能性	高圧ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険がある。 可燃性のガスであり、空気と爆発性混合ガスを形成し易い。 車内で放出すると窒息性及び酸欠になることがあるので、使用後は換気を十分に行うこと。 換気に際しては、周囲に着火源の無いことを確認すること。酸化性物質と激しく反応する。 プロパン: 二酸化塩素と激しく爆発。 ブタン: ニッケルカルボニル+酸素との混合ガスは爆発を起こす。燃焼すると、刺激性のヒュームを生成する。 酸化剤と反応する。
避けるべき条件	40°C以上の高温、直射日光、静電気、衝突、火気
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	燃焼により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素等)を発生する。

<b>11. 有害性情報</b>	(有害性は、内容液と噴射剤に分け有害性を判断した。噴射剤がガス又は気体として有害区分に該当する場合は記載した。)
急性毒性(経口)	ATEmix=計算結果が10132mg/kgのため区分外に該当するが、毒性が未知の成分を1%未満含有するため、分類できない。
急性毒性(経皮)	既知成分の全てが区分外であるが、毒性が未知の成分を10%未満含有するため、分類できない。
急性毒性(吸入:ガス)	本品はエアゾールであり、GHS定義による気体ではない。噴射剤は区分に該当しない。
急性毒性(吸入:蒸気)	既知成分の全てが区分外であるが、毒性が未知の成分を10%未満含有するため、分類できない。
急性毒性(吸入:粉じん/ミスト)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	加成方式が適用できる成分からの判定: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。
眼に対する重篤な損傷性及び眼刺激性	加成方式が適用できる成分からの判定: 眼区分2A+眼区分2B+眼区分2の成分合計が10%以上のため、区分2Aに該当。
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	区分1の成分が1%以上のため、区分1に該当。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	区分1Aの成分が1%以上のため、区分1Aに該当。
生殖毒性	区分1Aの成分が1%以上のため、区分1Aに該当。
授乳影響	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)の成分が10%以上のため、区分3(気道刺激性、麻酔作用)に該当。 噴射剤の液化石油ガスは区分2(心臓)、区分3(麻酔作用)に該当。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)区分2(中枢神経系)に該当する成分が10%以上のため、区分1(肝臓)区分2(中枢神経系)に該当。
吸引性呼吸器有害性	本品はエアゾールであり、GHS定義による固体、液体ではないため分類できない。
その他	内容液は誤えん有害性に分類される成分を含まない。 液化ガスが皮膚に触れると、炎症や凍傷を起こす恐れがある。

## 12. 環境影響情報

生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし 成分の情報 エタノール:良分解性
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書に規制されている物質を含まない。
その他	現在のところ有用な情報はないが、漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意すること。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物・汚染容器及び包装	関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。廃棄をする場合には、内容物を完全に排出した後に行う。 残留した内容物を排出するときは、必ず風通しの良い火気の無い屋外で行う。 気化し多量の可燃性蒸気を発生する液化ガスが内用液に溶解しているため、回収するときはガスが抜けてから容器を密閉する。 中身が出なくなるまで排出した後も破裂する恐れがあるので、火中に投じない。 許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理する。
----------------	--

## 14. 輸送上の注意

・「7.取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと  
輸送の特定の安全 運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、

対策及び条件	荷崩れの防止を確実にを行う。	
国内規制		
陸上輸送	消防法、道路法等の輸送について定めるところに従う。	
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。	
海洋汚染物質	非該当	
航空輸送	航空法に定めるところに従う。	
緊急時応急措置	126	
指針(容器 イエローカード) 番号		
国際規制		
陸上輸送(ADR/RIDの規定に従う)		
国連番号	1950	
品名	エアゾール(引火性のもの 1 L を超えない)	
国連分類	2.1	
容器等級	---	
海上輸送(IMOの規定に従う)		
国連番号	1950	
品名	エアゾール(引火性のもの 1 L を超えない)	
国連分類	2.1	
容器等級	---	
海洋汚染物質	非該当	
MARPOL73/78	非該当	
付属書Ⅱ及びIBC コードによるばら 積み輸送される 液体物質		
IBCコード	非該当	
航空輸送(ICAO/IATAの規定に従う)		
国連番号	1950	
品名	エアゾール(引火性のもの 1 L を超えない)	
国連分類	2.1	
容器等級	---	

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	危険物・引火性の物 危険物・可燃性のガス(プロパン、ブタン) 名称等を表示すべき危険物及び有害物:ブタン、エタノール 名称等を通知すべき危険物及び有害物:ブタン、エタノール 有機溶剤中毒予防規則:非該当
船舶安全法	高压ガス
航空法	高压ガス
高压ガス保安法	適用除外(液化ガス、可燃性ガス、圧縮ガス)但し、政令告示並びに高压ガス保安一般規則規程に従う。
消防法	第4類 アルコール類
毒劇法	非該当
PRTR 法	非該当

## 16. その他の情報

	本SDSは、JIS Z7253:2012に準拠して作成している。 又、JIS Z7252:2014に基づいたGHS分類判定システムを使用し分類判定を実施。
参考文献	原料SDS NITE 化学物質総合情報提供システム NIHS 国際化学物質安全性カード 環境省 Chemi coco 労働安全衛生法対象物質データ
記載内容の取扱い	全ての資料、文献を調査しているわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。 また、新しい知見の発表や従来の説の改訂等により内容に変更が生じることがあります。 記載された情報は、情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性があるため、取扱いは細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。